

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

I 法人の概要（平成 31 年 4 月 1 日現在）

1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目 8 番 1 号

2 設立年月日

昭和 51 年 3 月 25 日

3 代表者

理事長 利島 康司

4 基本財産

2, 208, 902 千円

5 北九州市の出捐金

1, 650, 000 千円（出捐の割合 74.7%）

6 役職員数

| | 人 数 | | | |
|-----|------|-----------|---------|-------|
| | 合 計 | うち本市からの派遣 | うち本市退職者 | うちその他 |
| 役 員 | 12 人 | 0 人 | 1 人 | 11 人 |
| 常 勤 | 1 人 | 0 人 | 1 人 | 0 人 |
| 非常勤 | 11 人 | 0 人 | 0 人 | 11 人 |
| 職 員 | 65 人 | 6 人 | 0 人 | 59 人 |

7 市からのミッション

内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興、北九州市における観光事業の健全な振興に資するとともに、コンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資することにより、本市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献する。

II 平成 30 年度事業実績

【概況】

MICE分野においては、毎年恒例の自主事業に加え、夏季・冬季のにぎわいイベントを実施したほか、コンベンションなどの誘致・開催及び貸館営業などに積極的に取り組んだ。これらにより、展示場・会議場ともに稼働率、利用者数で高い実績を確保することができた。なお、日本政府観光局（JNTO）発表の平成 29 年の国際会議開催件数において、北九州市は全国 8 位に入り、前年の 10 位を上回る好成績となった。

観光分野においては、観光客誘致・滞在化促進のため、国内外でのセールスの実施や、情報発信、観光に関する施設の管理・運営に取り組んだ。

収支についても一定の黒字を確保し、将来に向けた経営基盤の強化を図るとともに、サービス

向上のための施設改修や、備品類の更新等についても取り組むことができた。

しかしながら、MICEの大都市圏への集中や、周辺他都市における展示場やコンベンション施設の新増設、MICEや観光に関する国内、世界規模での誘致競争などにより競争の激化が予想され、中・長期的には楽観できない状況にある。

したがって、引き続き誘致・営業の強化やサービス向上及び経営の合理化を図り、これまで以上に自主自立の経営の確立を進めていかなければならない。

見本市・展示会事業

1 主催・共催事業

(1) 西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針との連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。主催・共催の事業においては、新たなビジネスの動向やSDGsの紹介、市場とつながるビジネスマッチングの展開などに取り組んだ。

◆当協会が主催・共催した主な見本市・展示会

※（ ）内は平成29年度実績

| 事業名 | 開催期日 | 入場者数 | 出展社数 |
|------------------------------|------------|-----------------------|--------------|
| 西日本製造技術イノベーション2018 | 6月13日～15日 | 17,214人 | 48社・団体(46) |
| 第44回ふくおか産業技術振興展 | | (19,352) | 21社・団体(23) |
| 第40回西日本陶磁器フェスタ | 9月20日～24日 | 64,813人 (50,854) | 226社(218) |
| エコテクノ2018～地球環境ソリューション展～ | 10月10日～12日 | 30,455人 (31,066) | 59社・団体(48) |
| エコテクノ2018～エネルギー先端技術展～ | | | 85社・団体(73) |
| エコ・ベンチャー・メッセ2018 | | | 21社・団体(29) |
| 中小企業テクノフェア in 九州2018 | | | 70社・団体(67) |
| P.P.C.2018 第20回西日本国際福祉機器展 | 11月15日～17日 | 20,069人 (22,111) | 119社・団体(128) |
| 合計 | 8事業(9事業) | 132,551人 (162,448) | 649社・団体(852) |

※平成29年度の合計には、「ワールドマーケット&ツーリズム2017」の実績を含む。

【事業の効果的な推進に向けた主な取り組み】

ア 見本市・展示会の価値創造

北九州市がSDGs未来都市に選定され、持続可能な目標に応じた地域経済活動を導入するため、「加速するビジネストレンドの紹介」「地域に根差した伝統工芸の振興」「新たな社会課題への対応」など産業振興に注力した。さらに、ビジネスマッチング機能や業務の共通化などに取り組み、出展社数や来場者数などの改善につながった。

○ 「西日本製造技術イノベーション」における取り組み

「ビッグデータ」「AI」の先進事例や、導入に向けたオープンイノベーションの進め方等のセミナーを開催した。また、航空機産業・自動車産業を中心に注目を集める高機能素材「C

FRP(炭素繊維強化プラスチック)」を地場に普及・啓発することを目的とする特別企画展では、研究開発が進む「CNF(セルロースナノファイバー)」を新たに展示内容に取り入れた。

○ 「西日本陶磁器フェスタ」における取り組み

40周年記念の特別企画として、「日本の至宝 佐賀の人間国宝展」や若手作家の作品展「Stay Hungry」を展開。芸術性の高い作品を一堂に展示し、当フェスタの魅力向上に努めた。また、SNSを活用した広報などにより、来場者の大幅増につながった。

イ 成果のあがる展示会の構築(継続的マッチング支援)

主催展示会での販売促進や商談の支援のため、出展社とユーザーとの橋渡しに努め、より大きな成果が得られるように会期前後の活動を強化した。

○ 製造技術マッチングフェア(商談会)

展示会を介した地域中小企業の販路拡大支援として、(公財)福岡県中小企業振興センターの協力を得て「製造技術マッチングフェア(商談会)」を開催した。

○ 中小企業テクノフェア in 九州 2018 ビジネスマッチング事業

産業コーディネータ集団「NPO法人北九州テクノサポート」と連携し、マッチングの件数と質の向上を目指した取り組みを行った。きめ細かなシーズ説明、市場のニーズ調査などにより、出展社アンケートでも高い評価を得た。

(2) 主催・共催事業と並行して関連するセミナー、シンポジウムを開催した。

(100テーマ、参加者数4,479人)

2 関係団体との連携事業

(1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、福岡県、北九州市や大学、関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

(2) 国際化の推進

ア 韓国BEXCO(釜山国際展示場)とのMOU事業

MOUを締結しているBEXCOと、主催事業の相互出展やベトナム環境展における九州企業の販路拡大支援の実施、表敬訪問による交流を行った。また、同展示場からの上海市CHC-EXPO社の紹介により、ECOTECH ASIA(上海市)に出展PRを行った。

イ 展示会の国際化

エコテクノにおいて、BEXCOとの相互出展事業として、「ENTECH釜山」とのブース交換による韓国企業・団体の出展や、香港貿易発展局の出展による香港の環境関連産業への投資促進を図る展示を実施した。また、西日本国際福祉機器展において、「KORECA」のPRブースの設置や、韓国釜山市・仁川市から出展があったほか、第20回開催記念特別企画として「欧州の福祉用具展」を開催し、欧州メーカーの各種福祉用具を展示紹介した。

ウ アジアの関係団体等への展示会出展誘致活動の実施

「ENTECHベトナム」(ホーチミン)、「ENTECH釜山」、「KORECA2018」への出展により、ホーチミンでは6社、釜山では1社の企業を参加コーディネートし、アジア地

域での取引拡大を図った。「ENTECHベトナム」では九州環境エネルギー産業推進機構(K-RIP)と協力し、来場誘致型のビジネスマッチングによる商談に注力した。

(3) 新たな価値創造を目指した見本市運営

新たな展示会の立ち上げについて、地方での連携を模索する展示会主催者との意見交換を行い、当協会の主催展示会でのセミナー開催の誘致につながった。また、装飾施工業務や電気工事業務の発注を一本化する「年間プロポーザル委託制度」の導入による業務の効率化や、ビジネスマッチングの場として、出展企業と来場者を結びつける「課題解決掲示板」を製造技術イノベーション展やエコテクノで導入するなど、効果的な展示会の実施を目指した。

(4) 災害復興支援

平成 28 年 4 月の熊本・大分地震災害と、平成 29 年 7 月の九州北部豪雨では、展示会に関係する様々な団体・企業が被災した中で、復興支援に取り組んだ。

エコテクノでは、被災した福岡・熊本・大分各県の環境・エネルギー関連企業の販路開拓・情報発信の拡大の一助となるべく震災復興支援ブースを設けた。(参加数 7 社 7 小間)

また、西日本陶磁器フェスタでは、平成 29 年 7 月の朝倉豪雨災害で流れた杉を材木にしたおきあがりこぼしを寄付者へプレゼントする朝倉災害復興支援事業「あさくら杉おきあがりこぼし展」(主催：同展実行委員会)を展開。広報協力と会場の無料提供により同事業を支援した。

会議・大会等

3 誘致・支援事業

(1) 北九州市がグローバル MICE 都市に選定されて以来、ローカルホスト及びグローバル MICE 推進協議会との連携を強化し、積極的な誘致活動を進めた。日本政府観光局(JNTO)発表の平成 29 年の国際会議開催件数は全国 8 位と前年をさらに上回る好成績をおさめた。

また、観光庁の MICE アンバサダーへの北九州市からの推薦・就任決定や、観光庁のデジタル・ジャパン 地方連携事業への参画による北九州市の魅力の発信など、新たな取り組みを行った。

(2) 国際規模をはじめとする学会・大会等の誘致に積極的に取り組んだ結果、平成 30 年度の開催状況は、281 件となった。

また、これらの誘致活動および開催助成金の効果的な活用の成果として、令和元年度以降に合計 167 件(平成 31 年 3 月 31 日現在)のコンベンションが予定されている。

なお、観光庁作成の「MICE 開催による経済波及効果測定モデル」によれば、平成 30 年度の当協会が誘致し開催した案件による経済波及効果(間接 2 次波及効果、雇用効果を含む)の推計値は 108 億 4,500 万円であった。

◆年度別開催件数の推移

(単位：件)

| 区分 | 国際 | 全国 | その他 | 合計 |
|--------|-----|----|-----|-----|
| H30 年度 | 114 | 80 | 87 | 281 |
| H29 年度 | 121 | 75 | 86 | 282 |
| H28 年度 | 90 | 73 | 102 | 265 |

◆年度別参加者数の推移

(単位：人)

| 区分 | 国際 | 全国 | その他 | 合計 |
|--------|--------|---------|--------|---------|
| H30 年度 | 86,372 | 69,256 | 40,913 | 196,541 |
| H29 年度 | 35,147 | 89,957 | 89,173 | 214,277 |
| H28 年度 | 44,580 | 104,687 | 53,997 | 203,264 |

◆平成 30 年度開催の主な会議・大会

| 規模 | 名称 | 開催時期 | 会場 | 規模 (外国国数、人数) |
|----|--|------------|-----------------------------|------------------------|
| 国際 | The2018 Global Conference on Polymer and Composite Materials (PCM2018) | H30 年 4 月 | 北九州国際会議場 | 708 人 (34 カ国 600 人) |
| | Fifth International Conference on Electric Power and Energy Conversion Systems (EPECS2018) | H30 年 4 月 | 北九州国際会議場 | 180 人 (18 カ国 150 人) |
| | 8th International Conference on Informatics, Electronics & Vision (ICIEV) | H30 年 6 月 | 北九州国際会議場 | 500 人 (19 カ国 360 人) |
| | The 8th International Symposium on Ethical Literary Criticism | H30 年 7 月 | 北九州国際会議場 | 600 人 (9 カ国 580 人) |
| | 15th International Symposium Functionally Graded Materials (ISFGMs) | H30 年 8 月 | 北九州国際会議場 | 500 人 (17 カ国 100 人) |
| | International Joint Seminar on Surface Functions Grougth by nano/ Microstructure | H30 年 11 月 | 九州工業大学 戸畑キャンパス | 600 人 (3 カ国 500 人) |
| | AILCD International Conference 2019 | H31 年 2 月 | 北九州学術研究都市 | 750 人 (5 カ国 495 人) |
| | 2019 IEEE International Conference on Microelectronic Test Structures (ICMTS2019) | H31 年 3 月 | 北九州国際会議場 | 308 人 (10 カ国 126 人) |
| 全国 | 2018 年度日創研経営研究会全国大会 | H30 年 5 月 | アルモニーサンクソレイユホール 北九州国際会議場 | 3,600 人 |
| | ロボティクス・メカトロニクス講演会 in Kitakyushu 2018 | H30 年 6 月 | 西日本総合展示場新館 北九州国際会議場 | 5,000 人 |
| | 第 12 回 日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 北九州 | H30 年 6 月 | 北九州国際会議場 | 1,750 人 |
| | 第 111 回日本消化器病学会九州支部例会/ 第 105 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会/ 第 73 回九州消化器内視鏡技師研究会 | H30 年 6 月 | 西日本総合展示場新館 北九州国際会議場 | 3,327 人 |
| | 下水道展'18 北九州 | H30 年 7 月 | 西日本総合展示場新館 西日本総合展示場本館 | 31,611 人 |
| | 第 5 回日本予防理学療法学会学術大会 | H30 年 10 月 | 北九州国際会議場 | 2,268 人 |
| | 日本私立大学協会 経理部課長相当者研修会 | H30 年 10 月 | リーガロイヤルホテル小倉 | 1,200 人 |
| | 日本臨床麻酔学会第 38 回大会 | H30 年 11 月 | 北九州国際会議場 | 7,392 人 |
| | 第 75 回全国老人福祉施設大会 (北九州大会) | H30 年 11 月 | 西日本総合展示場新館 | 3,600 人 |
| | 第 7 回日本小児診療多職種研究会 | H30 年 11 月 | 北九州国際会議場 AIM3F | 1,200 人 |
| | 第 28 回日本 MRS 年次大会 | H30 年 12 月 | 北九州国際会議場 | 4,500 人 |
| | 第 46 回全国高等学校選抜卓球大会 | H31 年 3 月 | 北九州市立総合体育館 | 4,000 人 |

【主な取り組み】

○ 誘致営業

新規誘致件数（平成 30 年度中の誘致営業により北九州市での開催が決定した件数）が 308 件と目標を上回る結果を残すことができた。地元ネットワークを活用した情報収集に加え、そのネットワークから国際・全国レベルのキーパーソンに対してのアプローチの展開、I C C A データベースを活用した営業展開など、多様な形で誘致活動を行った。

また、新たな取り組みとして、学術分野や産業界において、国内外に対する強い発信力やネットワークを持ち、「日本の顔」となる観光庁のM I C Eアンバサダーに、産業医科大学医学部第 1 内科学講座 田中良哉教授を推薦し、就任が決定した。

○ スポーツ誘致

第 51 回全日本シニア・マスターズ体操競技選手権大会-2018 プレミアム体操北九州-や、第 46 回全国高等学校選抜卓球大会等の誘致を行い、55 件、延べ参加人員 7 万 7 千人のスポーツイベントを北九州市に誘致することができた。

○ グローバルM I C Eの推進

I C C Aのネットワークを活用し、開催候補年やキーパーソンなどの会議情報を活かした国際会議誘致に取り組むとともに、J N T Oとの連携により、「J A P A N M I C Eセミナー」(シンガポール)や、国際会議海外キーパーソン招請事業「M e e t J a p a n」(東京)などの商談会に参加し、国際学協会のキーパーソンへの誘致営業を行った。

また、観光庁の「平成 30 年度ビジット・ジャパン地方連携事業」として、福岡観光コンベンションビューロー等と共同し、4 か国・地域（韓国、中国、台湾、シンガポール）の旅行会社を招請した訪日教育旅行・研修旅行ファミトリップを実施した。

○ 北九州M I C E倶楽部・下関首都圏誘致懇談会 首都圏交流会

北九州市で過去にコンベンションを実施、または今後検討している首都圏の大学教員等の会議主催者との交流会を、一体的な都市圏・経済圏を形成する下関市と共同で開催した。

○ アフターコンベンションの強化とユニークベニューの開発

国際会議のエクスカージョンでのモノレールの貸切運行によるランチや、ミクニワールドスタジアム北九州の特別ラウンジを使用したバンケットなど、北九州の魅力や特徴を生かしたアフターコンベンション、ユニークベニューに取り組んだ。

(3) 主催・共催事業については、北九州国際会議場等を活用し、幅広い年齢層を対象に各種イベントを実施した。

◆イベント・大会等の企画、開催（主催・共催） ※（ ）内は平成 29 年度実績

| 事業名 | 開催期日 | 入場者数 |
|--------------------------|---------------|----------------|
| 小倉まちづくりミーティング泡盛ナイト in 小倉 | H30年7月24日 | 166人(170人) |
| 第25回北九州将棋フェスティバル | H30年9月15日～16日 | 787人(実績無) |
| 第18回全国俳句大会 in 北九州 | H31年3月2日～3日 | 1,507人(1,510人) |

貸館利用者の誘致・営業強化

4 営業体制の強化

(1) リピーターへの定着化フォロー及び過去利用者への提案営業

中古車・家具の展示会や試験会場等の既存利用者に、次回日程提案等の積極的なフォローを行い定着化を図った。また、過去の展示場の顧客データを分析するとともに、隔年開催や利用頻度が減少等している顧客に対し、定期訪問による施設利用の働きかけや集客支援などの提案営業を実施し、9件の復活開催が実現した。

(2) 新規利用者の開拓

自動車工具や社内技能競技会、大学の入学試験会場など38件の新規展示会等を開催した。

(3) 大規模イベントの誘致と支援

6月に人気スマホゲーム「グラブルサマーフェス」を展示場新館で初開催し、2日間で1万人の来場があった。7月には北九州市に本社がある(株)ゼンリンの「ZENRIN ALL STARS FESTIVAL」を展示場新館で開催した。

また、10月には今回で4回目の開催となる「東京ガールズコレクション2018」(TGC KITAKYUSHU 2018)を、11月には今回で5回目の開催となる「北九州ポップカルチャーフェスティバル2018」(KPF2018)が開催され、北九州市の活性化と経済効果を促した。

◆平成30年度 新規及び利用が復活した展示会・見本市等の誘致実績

| 催事名 | 開催時期 | 催事名 | 開催時期 |
|-----------------------------------|----------|--|--------------------|
| 2018年度 新入社員研修 | H30年4月 | 池田屋ランドセル展示会 | H30年9月 |
| 菊池道場 春祭り 「学級ディベート」を学ぼう | H30年4月 | パソコン(初級)・介護スタッフ講習 | H30年10月 |
| BRICKLIVE in JAPAN 2018 | H30年5月 | 井筒屋の家具と住まいの大祭典 | H30年10月 |
| ガジュマルダーツ大会 | H30年5月 | ひびしんビジネスフェア 2018 出展社向け事前説明会 | H30年10月 |
| にしにほんツールショー2018 | H30年6月 | 平成30年度中小企業・小規模事業者等 に対する働き方改革推進支援事業 | H30年11月 |
| 介護職員初任者研修 | H30年6・7月 | パーフェクト2018 北九州大会 | H30年11月 |
| グラブルサマーフェス | H30年6・7月 | ひびしんビジネスフェア 2018 | H30年11月 |
| ZENRIN ALL STARS FESTIVAL | H30年7月 | JAPAN CUP 九州サーキット 2018 | H30年12月 |
| どてらい市 | H30年7月 | 九州ウェルディングフェスタ | H30年12月 |
| プラレール博 in KITAKYUSHU | H30年7月 | ランタンファンタジア ～光の国のアリス～ | H30年12月 ・H31年1月 |
| メガ恐竜展 2018 巨大化の謎にせまる | H30年8・9月 | ふわふわコロコロわーど | H31年1月 |
| 技能グランプリ九州予選 | H30年8月 | 日教組第68次全国大会 | H31年2月 |
| マッサージチェア展示即売会 | H30年8月 | 日教組第68次全国集会分科会 | H31年2月 |
| 技能グランプリ全国大会・生産財セ ールスマンコンテスト | H30年9月 | 明治大学全学部統一入学試験 | H31年2月 |
| 三菱電機 FA/ロボット/ソリューション トラックキャラバン | H30年9月 | 理系学生のためのマイナビ就職 EXPO九州大会 建築・土木系学生のためのマイナビ 就職セミナー福岡会場 | H31年3月 |

5 閑散期対策等のイベントコーディネート

(1) ゴールデンウィーク及び夏季閑散期にぎわいイベント

従来、ゴールデンウィークには自主事業を開催してきたが、平成30年度はファミリー向けのにぎわいイベントとして、5月3日～6日にレゴファンイベントの「BRICKLIVE in JAPAN 2018」を展示場新館で初開催し、4日間の会期で約1万人の来場があった。

また、夏季のにぎわいイベントとして、7月に「プラレール博 in KITAKYUSHU」をFBS福岡放送と展示場本館で開催（来場者4万人）、8月には九州初上陸となる「メガ恐竜展2018」を読売新聞西部本社及びTVQ九州放送と展示場本館で初開催した。（来場者6.6万人）

(2) 冬季閑散期にぎわいイベント

冬季のにぎわいイベントとして、12月に九州初登場となる「ランタンファンタジア～光の国のアリス～」を西日本新聞社及びFBS福岡放送と展示場新館で初開催（来場者約1.5万人）、1月から「ふわふわコロコロわーど」を展示場新館で同時開催した。

◆平成30年度 閑散期対策イベント等の開催実績

| 催事名 | 会期 | 入場者数 |
|-------------------------|---|----------|
| BRICKLIVE in JAPAN 2018 | H30年5月3～6日 | 9,276人 |
| プラレール博 in KITAKYUSHU | H30年7月14～19日 | 40,047人 |
| メガ恐竜展2018 | H30年8月3日～9月2日 | 66,392人 |
| ランタンファンタジア～光の国のアリス～ | H30年12月22～24, 29～30日 H31年1月2～6, 12～14日 | 14,770人 |
| ふわふわコロコロわーど | H31年1月2～6, 12～14日 | 9,875人 |
| 合計 | | 140,360人 |

広報・宣伝、地域連携

6 広報、宣伝

ホームページにおいて、イベントの最新情報や施設の紹介、協会の主催事業やコンベンション誘致に関する情報を提供し、見やすく迅速な情報発信ができるように努めた。

7 地域連携

小倉駅新幹線口エリアの地域振興団体と共同で、異業種交流会や地域清掃イベント等を行うなど、地域の活性化に助力し、にぎわいづくりに取り組んだ。

さらにJR主要駅に近接しているという施設の特徴を生かすため、JR九州及びJR西日本との連携による、効果的な主催事業等のPRを行った。

管理・運営

8 お客様満足度の向上

(1) サービスの向上

利用者に対して、そのニーズを的確に汲み取り、丁寧に対応することを心掛けた。また、ウェブサイトでの会議室利用料等の概算シミュレーションを可能とする予約サポートシステムの導入を行い、利用者が安心して利用できる環境を整備した。

ミクニワールドスタジアム北九州での試合開催時には、展示場・会議場利用者に影響が及ばないように、主催者であるギラヴァンツ北九州と事前に会場周辺についての打ち合わせを行い、トラブル防止に努めた。

(2) 職員の資質・能力の向上

サービス品質の向上を目指し、専門講師を招いた情報セキュリティ等の内部研修やQC活動を実施した。また、「国際会議場施設協議会」「全国展示場連絡協議会」の担当者実務セミナーの受講等により、職員の資質・能力の向上を図った。

9 利用料金の見直し

人手不足による委託費・修繕費の上昇、消費税改定等に対応するための利用料金改定について検討を行った。

10 管理業務の効率化

照明のLED化による電力使用量の低減や、デマンドの監視、力率の改善、空調動力の時差運転等による消費電力の削減、メンテナンス等委託業務の内容の見直しなど、管理経費の削減に努めた。また、国際会議場へのテナント入居促進や、全国規模の賃貸会議室ポータルサイトへの登録によるPRなど、増収対策に取り組んだ。

11 施設の改修等

施設の老朽化対策や利便性・安全性の向上等のため、施設設備の改修更新等を行った。

【主な実施内容】展示場本館：鉄柱塗装改修工事、展示場新館：AIM展示場照明LED化、国際会議場：ワイヤレスマイク受信機デジタル化、等

12 施設の稼働率等

◆西日本総合展示場本館の利用状況

| 区分 | 件数 (件) | 稼働日数 (日) | 稼働率 (%) | 入場者数 (万人) |
|--------|--------|----------|---------|-----------|
| H30 年度 | 64 | 299 | 86.9 | 24 |
| H29 年度 | 67 | 285 | 80.3 | 32 |
| H28 年度 | 65 | 252 | 78.5 | 27 |

◆西日本総合展示場新館の利用状況

| 区分 | 件数（件） | 稼働日数（日） | 稼働率（％） | 入場者数（万人） |
|-------|-------|---------|--------|----------|
| H30年度 | 193 | 309 | 86.6 | 56 |
| H29年度 | 179 | 286 | 79.2 | 69 |
| H28年度 | 163 | 299 | 81.8 | 57 |

◆北九州国際会議場の利用状況

| 区分 | 件数（件） | 稼働日数（日） | 稼働率（％） | 入場者数（万人） |
|-------|-------|---------|--------|----------|
| H30年度 | 539 | 334 | 96.0 | 8 |
| H29年度 | 557 | 325 | 94.5 | 6 |
| H28年度 | 568 | 321 | 92.2 | 7 |

13 指定管理

指定管理期間（平成26年度～30年度）の最終年度であった平成30年度は、指定管理計画に掲げた目標（来場者数（展示場・会議場）77万人、コンベンション誘致件数195件など）を概ね達成（来場者数88万人、コンベンション誘致件数308件など）した。

観光客の誘致及び滞在化の促進

14 観光客誘客事業・滞在化促進事業

(1) 他都市及び旅行社等を訪れてのPR活動

北九州市及び観光関連企業で「北九州市国内観光客等誘致促進協議会」等を組織し、国内・海外において本市の観光資源や新しい観光情報等のPRを行った。

【北九州市国内観光客等誘致促進協議会事業】

九州福岡おみやげマルシェ&観光フェスタ（大阪市・5月26日～27日）での観光PRや、Kit a Qフェス in TOKYO（東京都・10月20日～21日）での観光PR、北九州市観光キャンペーン in 関西（大阪市など・11月12日～14日）での街頭キャンペーン及び旅行会社へのセールスなどを実施した。

【北九州市国際観光推進協議会事業】

新規インバウンド送客が見込めるタイ及び台湾における誘致助成金事業や、韓国、台湾等の旅行会社へのセールスを実施し、海外からの観光客の誘致を図った。

【北九州産業観光センター実行委員会事業】

「ツーリズムEXPOジャパン2018」、「北九州マラソン2019」など、市内外のイベントに出展し、産業観光PRを実施した。

(2) まつり・都市間交流事業

他都市での祭りイベントに出展し、観光PRを行った。

「第23回知覧ねふた祭り」（南九州市・7月21日）：観光PRと焼うどん等の実演販売

15 修学旅行誘致事業

北九州市及び修学旅行関連企業と連携し、主要都市の旅行会社へのセールス活動を行った。

16 助成事業

北九州市国内観光客等誘致促進協議会事業として、市内に宿泊及び市内の観光施設等に立ち寄るバスツアーを対象に、バスの台数に応じた補助を実施した。また、伝統的な祭事へ助成を行った（11件）。

観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

17 企画広報宣伝・情報収集調査事業

機関誌・観光関連書籍の発行やホームページの運営等により、広報宣伝と観光情報の収集・調査に努めた。

観光に関する人材の育成及び啓発

18 百万にこここホスピタリティ運動

小倉のランチスポットを紹介するランチマップの制作（10,000部）や、SNS等での各事業者による取り組みの紹介等を実施した。

19 観光案内ボランティアの養成及び派遣

(1) 観光案内ボランティア制度運営

旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区等でのガイド活動や、イベント、祭りに合わせて設置した特設観光案内所でのガイド活動を実施した。また、ガイドのレベル向上のため観光案内ボランティア研修会を開催した。

① 旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区をはじめとするガイド活動

ガイド件数：1,128件、ガイド人数：25,156名（特設観光案内所含む）、活動者数：1,861名

② イベント、祭りにあわせて設置した特設観光案内所でのガイド活動

門司海峡フェスタ、とばた菖蒲まつり、小倉祇園太鼓、戸畑祇園大山笠、わっしょい百万夏まつり、門司港駅グランドオープン門司港駅ガイド

③ 観光案内ボランティア研修会

全体研修会などの開催、「明治日本の産業革命遺産」ガイド研修会などへの参加

(2) 北九州観光市民大学

- ・期間：平成30年9月25日～平成31年1月23日（計15回）
- ・会場：北九州市立大学ほか
- ・受講者数：17名（うち、北九州市観光案内ボランティア登録者13名）

特産品の紹介・宣伝

20 特産品の紹介・宣伝

(1) 特産品パンフレットの作成配布

特産品を紹介するパンフレットを作成、市内各所に設置し観光客等にPRを行った。

- (2) ホームページでの紹介、販売（オンラインショップ）等
- ・北九州観光市場（発注件数：145件） ・楽天市場（発注件数：666件）
 - ・ふるさと北九州市応援寄附金返礼品（受注件数：1,124件）
- (3) 大規模イベント会場での臨時売店設置
- 市内外での大規模イベントにおいて臨時売店を設置した。

観光に関する施設の管理運営

21 観光案内所運營業務

【北九州市観光案内所運営協議会】

北九州市、九州旅客鉄道(株)、西鉄バス北九州(株)、北九州エアターミナル(株)と北九州市観光案内所運営協議会を組織し、官民一体となり市内4箇所の観光案内所におけるサービス強化を図った。

《案内件数》

北九州市観光情報コーナー：6,897件、小倉駅総合観光案内所：62,778件

門司港駅観光案内所：79,504件、北九州空港総合観光案内所：48,959件

【北九州産業観光センター】

北九州産業観光センター（北九州市、北九州商工会議所、当協会）において、産業観光協力企業と工場見学等に関する調整を行うとともに、産業観光ツアー及び工場夜景クルーズへのガイド・ナビゲーターの派遣等を行った。

《参加状況》

産業観光視察（36件836名）、工場夜景ツアー（クルーズ、バス）（30件1,916名）

工場夜景定期クルーズ 実施主体：関門汽船(株)（76件2,734名）

22 土産品・特産品売店の管理運営

門司港レトロ地区の主力のお土産センターとして「北九州おみやげ館」を運営。カードに加えQRコード決済を新たに導入、免税店としての機能を活用し、外国人旅行者への特産品PR・販売を促進した。

また、TOTOミュージアムでは、売店の運営を受託し、産業観光と連携した土産品の紹介・販売を行った。

23 小倉駅イベント広場等の管理運営

JR小倉駅3階在来線改札口前のJAM広場について、イベントや観光展などへ貸出を行った。

また、同場所において、大型映像装置「JAMビジョン」で、市政情報・啓発CMや観光情報、広告CM等の放映を行った。

Ⅲ 平成 30 年度決算

1 貸借対照表(総括表)

平成 31 年 3 月 31 日現在 (単位: 円)

| 科 目 | 当 年 度 | 前 年 度 | 増 減 |
|-------------------|---------------|---------------|--------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 672,380,093 | 564,459,874 | 107,920,219 |
| 売掛金 | 10,056,002 | 11,231,707 | ▲ 1,175,705 |
| 未収金 | 51,434,401 | 57,595,527 | ▲ 6,161,126 |
| 棚卸資産 | 5,873,532 | 5,665,520 | 208,012 |
| 貯蔵品 | 555,609 | 1,100,855 | ▲ 545,246 |
| 前払金 | 872,528 | 984,683 | ▲ 112,155 |
| 繰延税金資産(短期) | 0 | 5,178,000 | ▲ 5,178,000 |
| 立替金 | 35,564 | 2,624 | 32,940 |
| 仮払金 | 18,925,743 | 15,720,523 | 3,205,220 |
| 流動資産合計 | 760,133,472 | 661,939,313 | 98,194,159 |
| 2. 固定資産 | | | |
| (1) 基本財産 | | | |
| 建物 | 420,752,284 | 461,360,325 | ▲ 40,608,041 |
| 建物附属設備 | 4 | 4 | 0 |
| 構築物 | 86,383 | 172,761 | ▲ 86,378 |
| 機械及び装置 | 42,030,923 | 53,871,601 | ▲ 11,840,678 |
| 基本財産引当資産 | 761,101,266 | 761,021,258 | 80,008 |
| 減価償却引当資産 | 984,931,457 | 984,894,000 | 37,457 |
| 基本財産合計 | 2,208,902,317 | 2,261,319,949 | ▲ 52,417,632 |
| (2) 特定資産 | | | |
| 退職給付引当資産 | 186,895,683 | 177,974,215 | 8,921,468 |
| 減価償却引当資産 | 18,865,776 | 19,373,376 | ▲ 507,600 |
| 目的事業引当資産 | 625,103,525 | 625,094,525 | 9,000 |
| 事業開催引当資産 | 7,650,000 | 7,650,000 | 0 |
| 施設耐震等改修工事引当資産 | 182,238,250 | 147,200,000 | 35,038,250 |
| 施設耐震等修繕費用準備資金積立資産 | 75,000,000 | 75,000,000 | 0 |
| 主催事業強化費用準備資金積立資産 | 0 | 0 | 0 |
| 誘致事業強化費用準備資金積立資産 | 0 | 0 | 0 |
| 広報宣伝強化費用準備資金積立資産 | 20,000,000 | 30,000,000 | ▲ 10,000,000 |
| 特定資産合計 | 1,115,753,234 | 1,082,292,116 | 33,461,118 |
| (3) その他固定資産 | | | |
| 建物 | 4,196,412 | 4,488,200 | ▲ 291,788 |
| 建物附属設備 | 1,169,000 | 1,871,008 | ▲ 702,008 |
| 構築物 | 1,546,349 | 1,761,053 | ▲ 214,704 |
| 車両運搬具 | 2,111,826 | 2,903,590 | ▲ 791,764 |
| 什器備品 | 2,922,908 | 1,755,255 | 1,167,653 |
| 建設仮勘定 | 17,000,000 | 8,000,000 | 9,000,000 |
| ソフトウェア | 0 | 148,615 | ▲ 148,615 |
| リース資産 | 1,968,120 | 3,335,128 | ▲ 1,367,008 |
| 繰延税金資産(長期) | 5,744,000 | 964,000 | 4,780,000 |

| | | | |
|-------------------|----------------------|----------------------|-------------------|
| その他目的有価証券 | 0 | 0 | 0 |
| その他固定資産合計 | 36,658,615 | 25,226,849 | 11,431,766 |
| 固定資産合計 | 3,361,314,166 | 3,368,838,914 | ▲ 7,524,748 |
| 資産合計 | 4,121,447,638 | 4,030,778,227 | 90,669,411 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 買掛金 | 7,881,470 | 5,723,745 | 2,157,725 |
| 未払金 | 157,935,476 | 175,124,335 | ▲ 17,188,859 |
| 前受金 | 40,303,509 | 23,061,732 | 17,241,777 |
| 預り金 | 18,186,843 | 13,817,132 | 4,369,711 |
| 仮受金 | 200,742 | 616,394 | ▲ 415,652 |
| 未払法人税等 | 38,264,700 | 28,044,300 | 10,220,400 |
| 賞与引当金 | 14,723,354 | 15,824,080 | ▲ 1,100,726 |
| 流動負債合計 | 277,496,094 | 262,211,718 | 15,284,376 |
| 2. 固定負債 | | | |
| 退職給付引当金 | 186,895,683 | 177,974,215 | 8,921,468 |
| リース債務 | 1,968,120 | 3,335,128 | ▲ 1,367,008 |
| 預り敷金 | 600,000 | 600,000 | 0 |
| 固定負債合計 | 189,463,803 | 181,909,343 | 7,554,460 |
| 負債合計 | 466,959,897 | 444,121,061 | 22,838,836 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1. 指定正味財産 | | | |
| 寄付金 | 756,000,000 | 756,000,000 | 0 |
| 展示場設備受贈益 | 348,218,439 | 371,544,947 | ▲ 23,326,508 |
| 基本財産運用益 | 5,101,266 | 5,021,258 | 80,008 |
| 指定正味財産合計 | 1,109,319,705 | 1,132,566,205 | ▲ 23,246,500 |
| (うち基本財産への充当額) | (1,109,319,705) | (1,132,566,205) | (▲ 23,246,500) |
| (うち特定資産への充当額) | (0) | (0) | (0) |
| 2. 一般正味財産 | 2,545,168,036 | 2,454,090,961 | 91,077,075 |
| (うち基本財産への充当額) | (1,099,582,612) | (1,128,753,744) | (▲ 29,171,132) |
| (うち特定資産への充当額) | (928,857,551) | (904,317,901) | (24,539,650) |
| 正味財産合計 | 3,654,487,741 | 3,586,657,166 | 67,830,575 |
| 負債及び正味財産合計 | 4,121,447,638 | 4,030,778,227 | 90,669,411 |

2 正味財産増減計算書（総括表）

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日（単位：円）

| | 当 年 度 | 前 年 度 | 増 減 |
|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| I 一般正味財産増減の部 | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| 基本財産運用益 | 11,264,193 | 11,329,773 | ▲ 65,580 |
| 展示場設備受贈益 | 23,326,508 | 23,326,508 | 0 |
| 特定資産運用益 | 4,228,500 | 4,725,500 | ▲ 497,000 |
| 受取会費 | 9,855,000 | 10,773,000 | ▲ 918,000 |
| 事業収益 | 841,214,629 | 876,951,333 | ▲ 35,736,704 |
| 受取補助金等 | 339,857,644 | 341,874,999 | ▲ 2,017,355 |
| 受取負担金 | 80,090,163 | 80,384,159 | ▲ 293,996 |
| 協賛金 | 700,000 | 630,000 | 70,000 |
| 雑収益 | 19,947,687 | 18,700,433 | 1,247,254 |
| 経常収益計 | 1,330,484,324 | 1,368,695,705 | ▲ 38,211,381 |
| (2) 経常費用 | | | |
| 事業費 | 1,191,495,756 | 1,204,604,749 | ▲ 13,108,993 |
| 管理費 | 13,635,590 | 14,713,037 | ▲ 1,077,447 |
| 経常費用計 | 1,205,131,346 | 1,219,317,786 | ▲ 14,186,440 |
| 当期経常増減額 | 125,352,978 | 149,377,919 | ▲ 24,024,941 |
| 2. 経常外増減の部 | | | |
| (1) 経常外収益 | | | |
| 車両運搬具売却益 | 0 | 191,410 | ▲ 191,410 |
| その他経常外収益 | 0 | 0 | 0 |
| 経常外収益計 | 0 | 191,410 | ▲ 191,410 |
| (2) 経常外費用 | | | |
| ソフトウェア除去損 | 18,003 | 1 | 18,002 |
| 機械及び装置除去損 | 0 | 0 | 0 |
| その他経常外費用 | 0 | 0 | 0 |
| 経常外費用計 | 18,003 | 1 | 18,002 |
| 当期経常外増減額 | ▲ 18,003 | 191,409 | ▲ 209,412 |
| 他会計振替額 | 0 | 0 | 0 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 33,859,900 | 28,044,300 | 5,815,600 |
| 法人税等調整額 | 398,000 | ▲ 2,623,000 | 3,021,000 |
| 当期一般正味財産増減額 | 91,077,075 | 124,148,028 | ▲ 33,070,953 |
| 一般正味財産期首残高 | 2,454,090,961 | 2,329,942,933 | 124,148,028 |
| 一般正味財産期末残高 | 2,545,168,036 | 2,454,090,961 | 91,077,075 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | |
| 基本財産運用益 | 4,375,508 | 4,377,008 | ▲ 1,500 |
| 一般正味財産への振替額 | 27,622,008 | 27,623,508 | ▲ 1,500 |
| 指定正味財産返還額 | 0 | 0 | 0 |
| 当期指定正味財産増減額 | ▲ 23,246,500 | ▲ 23,246,500 | 0 |
| 指定正味財産期首残高 | 1,132,566,205 | 1,155,812,705 | ▲ 23,246,500 |
| 指定正味財産期末残高 | 1,109,319,705 | 1,132,566,205 | ▲ 23,246,500 |
| III 正味財産期末残高 | 3,654,487,741 | 3,586,657,166 | 67,830,575 |

IV 令和元年度事業計画

1 総論

【協会の活動】

当協会の役割は、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーンの一体的な運営によるグローバル志向のMICEを誘致開催するとともに、国内外の観光客誘致・滞在化を促進する観光事業の推進により、当地域の都市ブランド力の向上、新たな魅力創造及びシビックプライドの醸成に貢献していくことである。この役割を果たすため、次の活動方針に基づき、各種事業を展開していく。

ア 国・県・市の政策を反映した産業振興に貢献する主催事業の機能強化

- ・北九州市等の政策を反映した自主事業の開催、ビジネスマッチング機能の強化、インキュベーション型自主事業の拡充、など

イ 国際会議を重視した精力的なMICE誘致開催活動

- ・国際会議のキーパーソンへのアプローチ、商談会等での北九州の魅力の発信、誘致開催助成金の活用、広域ネットワークによる連携、など

ウ にぎわいと新たな領域開拓による施設利用促進

- ・西日本総合展示場新館・本館、北九州国際会議場の3施設一体管理による、にぎわい事業の実施と利用者の新規開拓、など

エ 利便性と顧客満足度の高い施設サービスの提供

- ・利用者・来場者に満足してもらうための、きめ細かいサービスの提供や、快適な施設の運営、など

オ 情報発信・受入態勢の質を高め、国内外の観光客誘致・滞在化を促進

- ・国内旅行客の誘客、インバウンド誘致の強化、地域資源を活用した情報発信力の向上、など

カ 観光資源、地域団体と連携したまちぐるみのおもてなし気運の醸成

- ・観光事業・MICE事業協働による観光資源の活用、まちの魅力向上、など

キ 業務改善、チームワーク、個人の創造性を育む組織体制の構築

- ・管理運営上の問題解決、職員能力向上のための教育研修の実施、など

ク 持続可能な施設運営に向けた環境経営

- ・創意工夫による収入確保と経費節減につながるコスト管理、コンプライアンス遵守、リスクマネジメント、など

【指定管理計画の目標実現に向けて】

令和元年度は、西日本総合展示場新館、北九州国際会議場の5年間の新たな指定管理期間の開始年度である。これまでの指定管理者としての実績を活かし、指定管理施設の活用と、周辺施設や関係団体との連携による魅力ある取り組みを行い、指定管理計画に掲げる目標（令和元年度：来場者数（展示場新館・本館、国際会議場）96万人、コンベンション誘致件数250件など）を着実に達成するとともに、法人の安定経営を実現するため、計画的・組織的な取り組みを進める。

2 各論

協会主催事業の強化

(1) 産業・貿易振興型の既存事業の充実

令和元年度は、「エコテクノ 2019」など、8事業を開催し、九州経済の動向や北九州市の産業施策に重点を置き、ビジネスマッチングの機会や先端技術などの発信を通じて、地域の産業・貿易の振興に努める。「西日本製造技術イノベーション」や「エコテクノ」においては、新素材や再生可能エネルギーなど、今後注目が予想される技術分野を紹介し、地域産業界の新規事業参入や新技術導入の機会を促進する。なお、令和元年度の「西日本製造技術イノベーション」は「ウェルディング・フォーラム in 西日本」との同時開催により、広報活動やビジネスマッチングなどの相乗効果を高めていく。

《令和元年度開催の事業》

| 事業名 | 開催期日 | 入場目標 | 出展目標 |
|---------------------------------|------------|----------|---------|
| 西日本製造技術イノベーション2019 | 6月19日～21日 | 20,000人 | 60社・団体 |
| 第45回ふくおか産業技術振興展 | | | 30社・団体 |
| 第41回西日本陶磁器フェスタ | 9月19日～23日 | 60,000人 | 200社 |
| エコテクノ2019 ～地球環境ソリューション展～ | 10月9日～11日 | 30,000人 | 100社・団体 |
| エコテクノ2019 ～エネルギー先端技術展～ | | | 100社・団体 |
| エコ・ベンチャー・メッセ 2019 | | | 25社・団体 |
| 中小企業テクノフェア in 九州 2019 | | | 70社・団体 |
| P. P. C. 2019 第21回西日本国際福祉機器展 | 11月14日～16日 | 20,000人 | 140社・団体 |
| 合計 | 8事業 | 130,000人 | 725社・団体 |

《企画内容の充実》

■ 『西日本陶磁器フェスタ』の新企画実施と既存企画等の強化

器と関連の深い「お茶」をテーマにした新企画と文化的要素の充実を図り、新しい層の来場者開拓に取り組む。併せて、人気コーナーとして定着した「ロールケーキフェスタ」や各種体験企画の強化により、来場者満足度のさらなる向上を目指す。

また、ビエンナーレ（隔年）開催となる「第25回日本陶芸展 九州展」（主催：毎日新聞社）の誘致、佐賀県陶芸協会とのタイアップ事業等を通じて、より芸術性の高い陶芸作品を間近で観覧いただく機会を創出するとともに、フェスタ全体で生活文化の向上と商取引の促進、地域のにぎわいづくりに貢献する。

■ 『エコテクノ』の強化

主催団体の連携を強化し、DM・Webの活用など効果的な営業活動に取り組む。SDGs、IoT/AI等の分野へのアプローチの継続に加え、バイオマス発電や洋上風力発電のアピールとともに最先端技術を駆使した農業分野へのエネルギー提案を実施するほか、ビジネスマッチングを充実し、成果の上がる展示会として魅力向上に努める。

《ビジネスマッチングの開催》

■主催事業における商談等の促進

西日本製造技術イノベーション、中小企業テクノフェア等において、高い技術的知見を有するコーディネーターと連携し、ビジネスマッチングの拡大を図る。

《国際ビジネスの推進》

■韓国釜山広域市BEXCOとの連携

平成27年度に締結したMOUに基づき、これまで共同出展事業の実施、経営者の相互来訪を行った。令和元年度は共同主催事業に向けた会議の開催のほか、交流事業の実施や中国を含めた3か国による情報発信などを行う。

(2) 新規展示会の開発と展示会運営の効率化への取り組み

新たな産業・ビジネスモデルの創造を支援するため、北九州市と協力して新規展示会の企画開発を行うとともに、展示会運営の見直しによる業務の効率化を図る。

■『地域ニーズを捉えた新規企画』の導入

国の地方創生総合戦略やSDGsモデル都市の推進とともに関係団体へのヒアリングから汲み取った地域ニーズに沿う新規企画を導入し、主催事業との相乗効果を図る。

■運営効率化に向けた装飾プロポーザル制度の再構築と各種データの統一

装飾・電気工事を一体化した年間プロポーザル制度の再構築を行い、さらなる業務効率向上を目指す。また、展示会の集客等にかかる関係先のデータのスクリーニングを進め、データベース化、共有化などの業務効率化を図る。

(3) にぎわい創出型事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客も見込める、メディア等とタイアップしたファミリー・イベントを開催し、市域の活性化に貢献する。

《夏休み等のにぎわいづくり事業》

■夏休み『トミカ博 in KITAKYUSHU』等の開催を企画

コンベンション誘致の強化

(1) グローバルレベルの誘致強化

国内外の商談会などに継続して参加することで、北九州市でのMICE開催の魅力を積極的にアピールする。また、現在国際会議協会（ICCA）に加入しており、それを通じて北九州開催に適した会議の情報収集を行うなど、グローバルレベルの誘致体制を整備する。さらに、中国から北九州市へのインセンティブ・ツアーの件数が顕著に増加しているため、北九州市上海事務所と連携し中国での情報発信を行い、さらなる誘致につなげる。

(2) 誘致営業活動についての取り組み

現地訪問による国際ネットワークのさらなる構築、首都圏への積極的な営業、西日本総合展示場・北九州国際会議場の効率的な利用促進、主催事業とのマッチング、MICE開催助成金の効果的活用、スポーツ関係の誘致等に取り組む。

(3) ステークホルダーとの連携

地元大学と締結した「コンベンションの誘致及び開催に関する連携協定」や地元ステークホ

ルダーと設立した「北九州市グローバルMICE推進協議会」を通じ、会議情報の共有や海外への誘致セールス、主催者に対する開催支援活動に取り組む。また、昨年、地元ローカルホストが新たにJNTOのMICEアンバサダーに就任したことから、JNTOとの連携を深めた誘致活動を推進するとともに、JNTOを通じた情報収集や北九州市の情報発信を図る。

(4) MICE開催地としての総合的な魅力向上

会議支援制度の継続実施、多彩なアフターコンベンションの提案、新たなユニークベニューの開発、主催者ニーズに応じたコンベンションボランティアによる支援、地元産業の特性を活かしたオリジナルノベルティの開発など、MICE開催地としての総合的な魅力向上を図る。

貸館利用者の誘致・営業の強化

(1) リピーターの定着化及び復活

当協会の展示場施設の収益の安定を図るために、重要なリピーターの施設利用の定着化や復活開催を推進させる。また、特にリピーター率が高い「自動車ディーラー」や「家電メーカー」、「ハウスメーカー」等に対し引き続き営業フォローに努める。

(2) 新規利用者の開拓

新たな利用形態を開拓するため、①コンサートやゲーム大会、②資格検定試験や入学試験、③企業レクリエーション（運動会等）などを中心に営業活動を展開する。

(3) 営業ツールの拡充

営業ツールとして、B to B向け展示会用のDMを作成し、潜在顧客のデータベースの掘り起しを行い、過去の会場利用者や工作機械メーカー等へ送付することで営業促進を図る。

(4) 閑散期「にぎわいイベント」への取り組み

主に夏休みや冬休みの対策として、ファミリー向けの「にぎわいイベント」の誘致に取り組む。令和元年度は、「トミカ博 in KITAKYUSHU」の開催を予定している。継続的に「にぎわいイベント」を開催していくため、会場利用等の条件の整備、効果的なコンテンツの選定を行い、多くのファミリーに喜んで来場してもらえる「にぎわいイベント」を構築していく。

広報・宣伝、地域連携

(1) 広報・宣伝

当協会ホームページに加え、情報誌「催事案内」の発行、小倉駅マルチビジョンによるPR、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示などによる広報活動を実施する。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口地区振興連絡会などとの連携）

小倉駅新幹線口のにぎわいづくりと魅力アップに貢献していくため、あるあるCityなどと連携したイベントの開催を検討。小倉駅新幹線口地区振興連絡会と連携し、地域活性化に向けた活動に積極的に取り組むとともに、小倉中央商業連合会と協調して小倉駅南北の往来活性化を図る。

お客様満足度の向上

(1) サービスの向上

利用者アンケートや利用実態等を参考に貸出備品等の充実を図る。展示場については、顧客ニーズに沿った施設環境づくりに努めるとともに、当協会ホームページでの利用事例の掲載や料金シミュレーションにより、施設利用についてよりイメージしやすい環境を整える。また、MICE誘致でミクニワールドスタジアム北九州と連携し、当施設として対応可能なハード・ソフト面でのサービスメニューや来場者への満足度向上に繋がるような利用方法等を検討する。

(2) 職員の資質・能力の向上

多様化するニーズに適応できる人材育成促進のため、企画力やコミュニケーション能力を高めるための研修等を積極的に導入する。また、個人情報保護や情報公開などコンプライアンスの遵守等も意識しながら、職員資質、能力開発を図ることにより、全般的なサービスの質の向上を目指す。さらに、QC活動を取り入れて、日々の業務の見直しを行うとともに職員間の意見交換を活発にし、職員全体のレベルアップを図る。

(3) 利用料金等の見直しの検討

多種多様なコンベンション・ニーズにフレキシブルに対応できるパッケージ料金を検討するとともに、利用者目線に合わせた会議室の利用受付期間の見直しなどを、北九州市と十分に協議しながら検討する。

(4) 施設・設備の改修等

展示場・会議場をいつも安全・快適に利用していただけるよう、老朽化している施設・設備・備品などの予防保守や改修・改善に適宜取り組む。

(5) 展示場本館の対応等

経年劣化による設備等の改修に注意し、効率的・効果的な修繕計画を検討する。特に、会場利用者の会場選定や展示物の損害に直接影響を与える雨漏れの防止対策について重点的に行う。また、大規模改修工事については、定期利用者等との今後の利用日程の調整を慎重に行いながら工期の設定に向けた準備を進める。

観光客の誘致及び滞在化促進

(1) 観光客誘致事業・滞在化促進事業

北九州市への観光客が増加している東アジアを中心とした旅行社へのセールスを強化するとともに、国内向けの観光キャンペーンを実施し、北九州市への誘客や滞在化促進を図る。また、各都市で開催される祭り・イベント等への出展やPR活動を行い、北九州市の祭り・イベントへの参加を促すことで、都市間交流による観光客誘致につなげていく。

(2) 修学旅行誘致事業

北九州市及び民間事業者で修学旅行誘致ワーキンググループを組織し、修学旅行の行程の実施状況の調査や旅行社教育旅行担当者へのセールス等を実施する。また、修学旅行の受け入れ体制を充実させるため、修学旅行ガイドの養成や新たな修学旅行受け入れのメニュー作りなどを行うとともに、教育関係者を招いたFAMツアー（視察旅行）の企画などを行う。

(3) 助成事業

北九州市観光振興プランでは、観光客数の目標数値〔令和元年 2,460 万人（うちインバウンド 26 万人）〕を掲げていたが、平成 29 年にそれを大きく上回る数値を記録した〔2,532 万人（うちインバウンド 68 万人）〕。

さらなる誘致強化を図るべく、国内向け旅行商品企画や海外旅行商品企画に対する助成を行い、国内外旅行者の誘客を促進する。また、北九州市を代表する伝統的な祭事に対し助成を行い、集客力のある祭事の継続による観光客の誘致を図る。

観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

北九州市の観光情報やイベント、コンベンション情報を掲載した機関誌「北九州観光だより」の発行や、北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ！北九州」の運営、観光カレンダーや観光絵葉書等の観光関連書籍の発行を行う。また、ホームページや F a c e b o o k などのアクセス解析・分析を行うなど観光客誘致のシステムづくりに向けた調査を行い、観光客のニーズに合った観光素材の P R 活動を強化していく。

観光に関する人材の育成及び啓発

外国人観光客の増加に対応し、受け入れ体制の充実を図るため、観光業務従事者を対象におもてなし意識の向上や語学等のコミュニケーション能力のスキルアップを目的としたセミナーを実施するなど、観光マインド育成事業を行う。また、観光ボランティア制度の運営や北九州観光市民大学を開講し、観光マインドの醸成を推進する。

観光に関する施設の管理・運営

公益目的事業では、北九州市、九州旅客鉄道(株)、西鉄バス北九州(株)、北九州エアターミナル(株)、当協会で組織する「北九州市観光案内所運営協議会」において、市内 4 ヶ所にある観光案内所において官民一体となったサービス強化を図る。

収益事業では、門司港レトロ地区で運営する「北九州おみやげ館」において、新商品や話題の商品等を考慮した品揃えを行うことや支払い方法をキャッシュレス化することにより収益増を図るとともに、門司港レトロ駐車場及び周辺施設の安定的な事業運営を行う。

また、J R 小倉駅 3 階の J A M 広場及び J A M ビジョンについては、北九州市の玄関口にふさわしいにぎわいの創出につながるイベントの実施や新たな顧客開拓につながる営業活動を行うことで収益増を目指す。

特産品の紹介・宣伝

特産品紹介パンフレットを作成し、市内各所で設置・配布を行うほか、北九州市の特産品をホームページで紹介するとともに、「北九州観光市場」「楽天市場」などの通販サイトで購入できるシステムを管理運営し、販売促進に努める。また、市内外で開催されるイベントや観光物産展のほか、M I C E 事業との連携を図り小倉駅新幹線口で開催される会議、大会、展示会等の会場で臨時売店を出店し、北九州市の特産品やお土産を販売していく。

V 令和元年度予算

収支予算書(総括表)

自 平成31年4月1日

至 令和2年3月31日(単位:円)

| 科 目 | 公益目的事業会計 | 収益事業会計 | 法人会計 | 内部取引控除 | 合計 |
|----------------------|---------------|--------------|-------------|--------|---------------|
| I 一般正味財産増減の部 | | | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | | |
| 基本財産運用益 | 5,268,000 | 1,663,000 | 4,298,000 | 0 | 11,229,000 |
| 展示場設備受贈益 | 17,729,000 | 5,598,000 | 0 | 0 | 23,327,000 |
| 特定資産運用益 | 4,110,000 | 109,000 | 0 | 0 | 4,219,000 |
| 受取会費 | 10,536,000 | 0 | 0 | 0 | 10,536,000 |
| 事業収益 | 349,707,000 | 501,819,000 | 0 | 0 | 851,526,000 |
| 受取補助金等 | 295,763,000 | 0 | 519,000 | 0 | 296,282,000 |
| 受取負担金 | 37,770,000 | 40,600,000 | 0 | 0 | 78,370,000 |
| 協賛金 | 500,000 | 0 | 0 | 0 | 500,000 |
| 雑収益 | 12,925,000 | 7,806,000 | 0 | 0 | 20,731,000 |
| 経常収益計 | 734,308,000 | 557,595,000 | 4,817,000 | 0 | 1,296,720,000 |
| (2) 経常費用 | | | | | |
| 事業費 | 829,737,000 | 410,194,000 | 0 | 0 | 1,239,931,000 |
| 管理費 | 0 | 0 | 14,898,000 | 0 | 14,898,000 |
| 経常費用計 | 829,737,000 | 410,194,000 | 14,898,000 | 0 | 1,254,829,000 |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | ▲ 95,429,000 | 147,401,000 | ▲10,081,000 | 0 | 41,891,000 |
| 基本財産評価損益等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特定資産評価損益等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 投資有価証券評価損益等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 評価損益等計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常増減額 | ▲ 95,429,000 | 147,401,000 | ▲10,081,000 | 0 | 41,891,000 |
| 2. 経常外増減の部 | | | | | |
| (1) 経常外収益 | | | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | | | |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外費用増減額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 他会計振替額 | 71,236,221 | ▲ 76,164,778 | 4,928,557 | 0 | 0 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 0 | 30,000,000 | 0 | 0 | 30,000,000 |
| 当期一般正味財産増減額 | ▲ 24,192,779 | 41,236,222 | ▲ 5,152,443 | 0 | 11,891,000 |
| 一般正味財産期首残高 | 1,943,748,337 | 362,347,760 | ▲29,040,180 | 0 | 2,277,055,917 |
| 一般正味財産期末残高 | 1,919,555,558 | 403,583,982 | ▲34,192,623 | 0 | 2,288,946,917 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | | | |
| 基本財産運用益 | 0 | 0 | 4,378,008 | 0 | 4,378,008 |
| 一般正味財産への振替額 | 17,729,000 | 5,598,000 | 4,298,000 | 0 | 27,625,000 |
| 当期指定正味財産増減額 | ▲ 17,729,000 | ▲ 5,598,000 | 80,008 | 0 | ▲ 23,246,992 |
| 指定正味財産期首残高 | 241,907,359 | 76,390,485 | 761,101,266 | 0 | 1,079,399,110 |
| 指定正味財産調整額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期末残高 | 224,178,359 | 70,792,485 | 761,181,274 | 0 | 1,056,152,118 |
| III 正味財産期末残高 | 2,143,733,917 | 474,376,467 | 726,988,651 | 0 | 3,345,099,035 |

VI 役員名簿

令和元年7月1日現在

| 役職名 | 氏名 | 備考 |
|------|-------|----------------------|
| 理事長 | 利島康司 | 北九州商工会議所 会頭 |
| 専務理事 | 柏木康彦 | (公財)北九州観光コンベンション協会 |
| 理事 | 鮎川典明 | 北九州市産業経済局長 |
| 〃 | 田中亮一郎 | 北九州市にぎわいづくり懇話会 副座長 |
| 〃 | 安部高子 | 北九州商工会議所女性会 副会長 |
| 〃 | 廣瀬香 | (一社)九州経済連合会 農林水産部長 |
| 〃 | 井上暢忠 | (一財)九州産業技術センター 専務理事 |
| 〃 | 熊野一雄 | 小倉社交事業組合 組合長 |
| 〃 | 関宣昭 | NPO法人里山を考える会 代表 |
| 〃 | 南浦忠義 | (株)リーガロイヤルホテル小倉 総支配人 |
| 監事 | 石井佳子 | 北九州市会計室長 |
| 〃 | 羽田野隆士 | 北九州商工会議所 専務理事 |